



5・28 「八丈浪漫音楽祭」開催

ソプラノ歌手で駐日ベネズエラ大使夫人のコロン・ネリかさを迎えて5月28日、「八丈浪漫音楽祭2017」が町ホールで開催される。午後1時30分から、入場は無料。

島外からはネリかさんのほか、夫で駐日ベネズエラ共和国大使の石川成幸氏、ポルトガルとイエメンの駐日大使夫人、ベネズエラの民俗楽器奏者3人、八丈の子どものたちの合唱指導にも関わってきた指揮者の加藤洋朗さん、ピアノ伴奏の確井俊樹さん、ファンサンブルならいらが出演。地元からはこの催しに向けて結成された八丈少年少女合唱団、八丈太鼓の浅沼宏雄さんほか、多彩な顔ぶれが参加を予定している。

第一部は「歌とピアノソロによるコンサート」。第二部の「交流ステージ」ではネリかさんによるベネズエラの音楽の解説や、そこで4月29日、加藤さんの指導で八丈少年少女合唱団が練習を行った。加藤さんの説明で、作曲者が歌に込めた意味を理解すると、子どもたちの発声や歌う表情が変化する。

実践されている音楽教育システム「エル・システマ」の話も。そして第3部が「合唱によるコロボとフィナーレ」のプログラムだ。ネリかさんは、南米ベネズエラの首都カラカス生まれ。10歳の時に家族と日本へ移住。平和の願いを込めた「被爆のマリアに捧げる賛歌」を各地で歌い続けている。

音楽祭の意義について加藤さんは「エル・システマは音楽を通して生きる希望を育てようという試みで、世界中で大きな実績を上げている。感じたことを表現できる能力を子どもたちが身につけると、自分の在り方、人への向き合い方も変わります。音楽にはその力があります。自然環境も文化的にも豊かで間口が広い八丈島に国境を超えていろいろな人が集まり、魅力的な音楽を発信していけるようになるといいですね」と話している。

同音楽祭実行委員長の大沢力さんは「国際色豊かな交流事業と音楽祭のお手伝いをと、縁のあった仲間が立ち上がりました。より多くの皆さんと共にいい催しにできればと願います」と話す。

ネリかさんらは前日、三原小・中学校で3回目のオリ・パラ国際交流授業を行う。